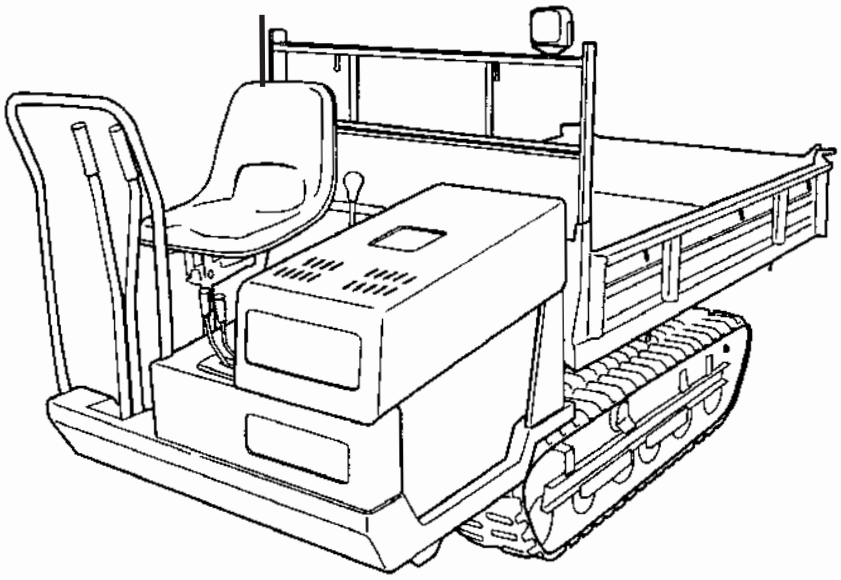
# 乗用型クローラ運搬車

## 取扱説明書

XG850LADE

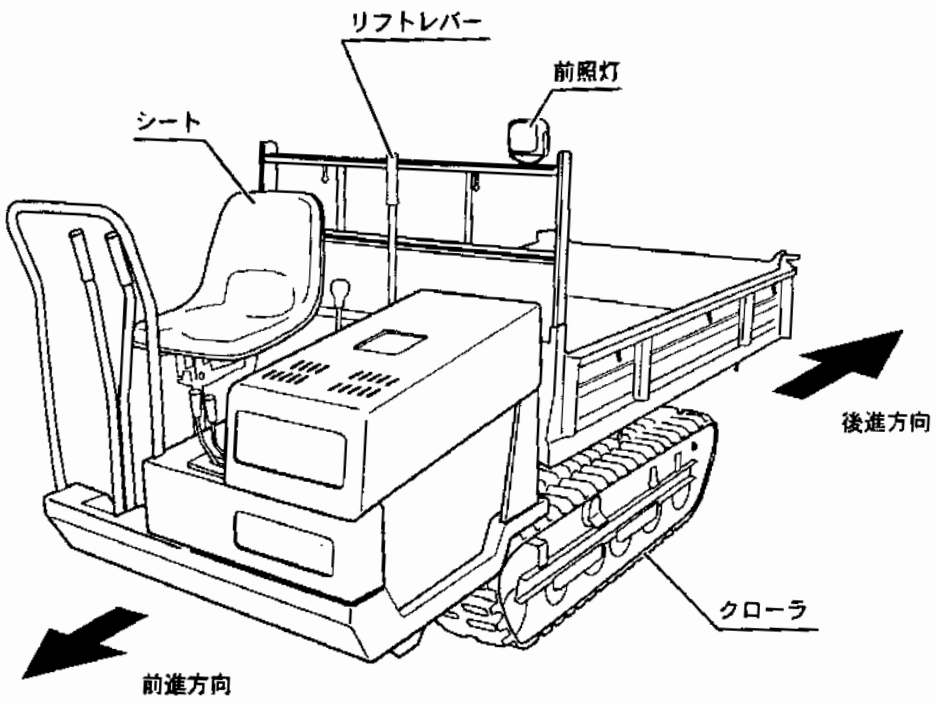


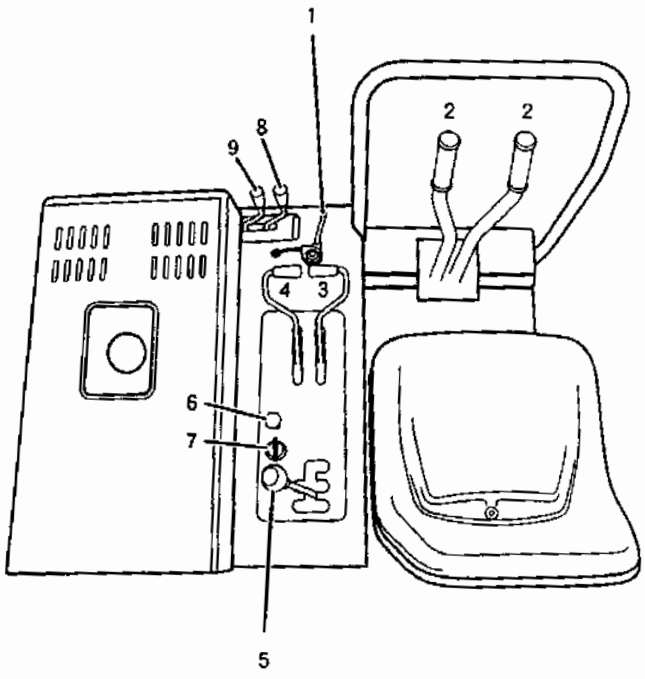
ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

# 4. 各部の名称とはたらき

## 各部の名称




3684M-0401-020

## 各部のはたらき

1 **スロットルレバー** ..... エンジン回転数の増減を行います。

2 **サイドクラッチレバー** ..... 方向を変える時に使用します。
車体はレバーを引いた側へ曲がります。
また、左右のサイドクラッチレバーを同時に引くとその場で急停止します。

3 **走行クラッチレバー** ..... エンジンからトランスミッションへの動力の伝達を断続させます。
レバーを前方に倒すと「入（発進）」の状態、後方に倒すと「切（停止）」の状態になります。

4 **駐車ブレーキレバー** ..... 車体を確実に駐車させます。
レバーを前方に倒すと「切（ブレーキ解除）」の状態、後方に倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態になります。倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態になります。

5 **変速レバー** ..... 走行速度の選択に使用します。
変速は走行クラッチレバーを「切」にして、車体が停止した状態で行ってください。

6 **チョークレバー** ..... レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。

7 **エンジンキースイッチ** ..... エンジンを始動させたり、停止させる時に使用します。

8 **ダンプレバー** ..... 荷台の「上昇」、「下降」のダンプ操作を行う時に使用します。

9 **リフトレバー** ..... 荷台の「上昇」、「下降」のリフト操作を行う時に使用します。

# 5. 製品仕様

## 5.1 本製品の仕様

**注　記**

**本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 名称・型式 | | | | XG850LADE |
| 荷台仕様 | | | | リフト&ダンプ |
| 機械質量 | | セル付き | kg | 685 |
| 最大作業能力 | | | kN (kg) | 8.33 (850) |
| 機械寸法 | 全長 | | mm | 2840 |
| | 全幅 | | mm | 1185 |
| | 全高 | | mm | 1425 |
| | クローラ接地長さ | | mm | 1180 |
| | クローラ中心距離 | | mm | 780 |
| | 最低地上高 | | mm | 170 |
| | 床面高さ | | mm | 605 |
| 荷箱寸法 | 荷箱内側寸法 | 長さ | mm | 1845 |
| | | 幅 | mm | 1080 |
| | | 高さ | mm | 230 |
| エンジン | 名称 | | | ミツビシGB290 |
| | 形式 | | | 空冷4サイクルOHVガソリン |
| | シリンダ（内径×行程） | | mm | 80×59 |
| | 総排気量 | | $cm^3$ (cc) | 296 (296) |
| | 最大出力 | | kW(PS)/rpm | 5.8(8.0)/2000 |
| | 連続定格出力 | | kW(PS)/rpm | 4.4(6.0)/1800 |
| | 最大トルク | | N·m(kgf·m)/rpm | 35.3(3.60)/1400 |
| | 始動方式 | | | セルフスタータ式 |
| | 使用燃料 | | | ガソリン |
| | 燃料消費率 | | g/kW·h (g/PS·h) | 313 (230) |
| | 燃料タンク容量 | | ℓ | 6.0 |
| | 潤滑油容量 | | ℓ | 1.0 |
| | バッテリ形式 | | | 40B19R |
| | バッテリ容量 | | V/AH | 12/28 |
| | 点火方式 | | | 電子点火 |
| | 点火プラグ品番 | | | BP5ES |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 名称・型式 | | | | | XG850LADE |
| 荷台仕様 | | | | | リフト&ダンプ |
| 走行性能 | 走行速度 | 前進 | 1速 | km/h | 2.0 |
| | | | 2速 | km/h | 4.3 |
| | | | 3速 | km/h | 6.9 |
| | | 後進 | 1速 | km/h | 2.0 |
| | | | 2速 | km/h | 4.3 |
| | 最小回転半径 | | | m | 2.0 |
| | 登坂能力 | | | 度 | 25<空車> |
| トランスミッション油量 | | | | ℓ | 2.0 |
| 動力伝達装置 | クラッチ形式 | | | | ベルトテンション方式 |
| | 主変速形式 | | | | ギヤスライド |
| | 操向装置形式 | | | | ドグクラッチ・ブレーキ |
| | ブレーキ形式 | | | | 内拡式ブレーキ |
| | | | | | |
| ダンプ | 荷台形式 | | | | 箱型三方開型 |
| | ダンプ方式 | | | | 油圧ダンプ方式 |
| | ダンプ能力 | | | KN(kg) | 7.84(800) |
| | 油圧ポンプ | 形式 | | | ギヤポンプ |
| | | 定格回転速度 | | $min^{-1}$ (rpm) | 1800 (1800) |
| | | 定格吐出量 | | ℓ/min | 8.0 |
| | | リリーフ設定圧 | | MPa (kgf/$cm^2$) | 13.7 (140) |
| | シリンダ(内径×行程) | | | mm | 55×200 |
| | 性能 | 最大上昇角度 | | 度 | 56 |
| | | 上昇時間 | | sec | 3.6 |
| | | 下降時間 | | sec | 4.6 |
| | 油圧作動油量 | | | ℓ | 2.0 |
| リフト | リフト方式 | | | | 油圧リフト方式 |
| | シリンダ(内径×行程) | | | mm | 60×300 |
| | 性能 | 上昇時間 | | sec | 6.4 |
| | | 下降時間 | | sec | 7.0 |
| | | 最大荷揚能力 | | kN (kg) | 7.84 (800) |
| | | 最大揚程 | | mm | 910 |
| | | 最大荷揚高 | | mm | 1515 |

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

## 5.2 工具袋明細

| No. | 部品名 | 個数 | 備考 | No. | 部品名 | 個数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 取扱説明書(本書) | 1 | | | | | |
| 2 | エンジン取扱説明書 | 1 | | | | | |
| 3 | エンジン工具 | 1式 | エンジン整備用 | | | | |

## 7.2 給油、給水、給脂、注油一覧表

| 項　　目 | 補給（交換）時期 | 推　奨　品 | 容量 | 参照ページ |
|---|---|---|---|---|
| 燃料 | 随時 | ガソリン | 6.0ℓ | ☞12ページ |
| エンジンオイル | 補給：毎日点検し、不足時に補給<br>交換：<br>初回：25時間<br>2回目以降：50時間毎 | (API分類　SD級以上<br>SAE分類　10W-30) | 1.0ℓ | ☞27ページ |
| トランスミッションオイル | 初回：50時間目<br>2回目以降：500時間毎 | ギヤオイル(API分類　GL4または5<br>SAE分類　#80) | 2.0ℓ | ☞28ページ |
| パワーパッケージオイル | 100時間毎に点検し、不足時に補給 | タービン油(ISO：VG32<br>JIS：#90) | 2.0ℓ | ☞29ページ |
| 転輪、支持転輪、遊動輪 | 6ヶ月毎<br>＊購入後、半年は給脂不要 | シャーシグリース | — | ☞30ページ |
| 各摺動部 | 6ヶ月毎<br>＊購入後、半年は注油不要 | ギヤオイル(API分類　GL4または5<br>SAE分類　#80) | — | ☞30ページ |
| バッテリ液 | 毎月点検し、不足時に補給 | 蒸留水 | — | ☞31ページ |

## 7.3 消耗品（交換部品）一覧表

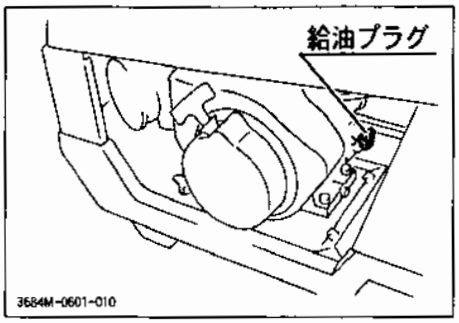
| 項　　目 | 交　換　時　期 | 個　　数 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| エアクリーナエレメント | 運転前に点検、清掃し、不具合があれば交換 | 1 | ☞32ページ |
| フューエルフィルタ | 50時間毎（毎週）に点検し、不具合があれば交換 | 1 | ☞33ページ |
| Vベルト | 不具合があれば交換 | 2種類 | 交換については販売店へ依頼してください |
| ブレーキライニング | 不具合があれば交換 | 2セット<br>（セットで交換） | 交換については販売店へ依頼してください |
| バッテリ | 不具合があれば交換 | 1 | ☞38ページ |
| クローラ | 不具合があれば交換 | 2 | 交換については販売店へ依頼してください |
| 上記以外で点検上交換が必要と思われる部品 | 販売店へお問い合わせください。 | — | — |

## 7.4 給油

注　記

**給油がおろそかになると、回転や作動が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となり、機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。**

### 7.4.1 エンジンオイル

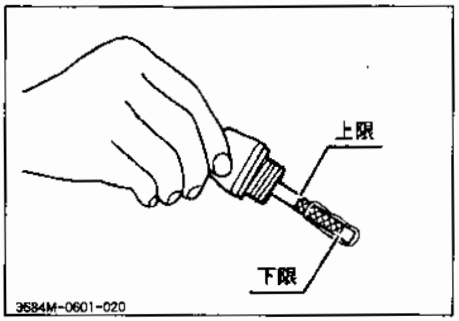



**点検／補給**

注　記

**エンジンを水平にして、点検をしてください。**

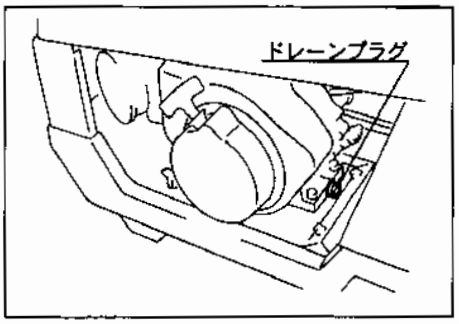
1. エンジンオイルの給油プラグ（オイルレベルゲージ付き）を取外します。




2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

   **使用オイル：☞26ページ**
   **オイル量：オイルゲージの上限まで**

3. 給油プラグを取付けます。




**交換**

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。

2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

**⚠注　意**

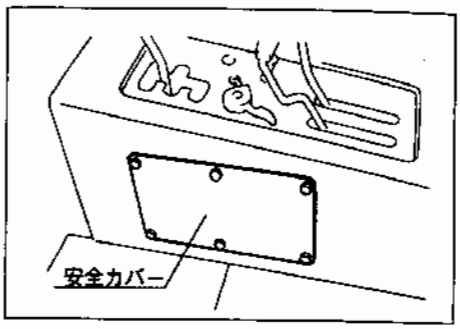
**オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

注　記

**廃油は適切な処理をしてください。**

3. オイルドレーンプラグを取付けます。

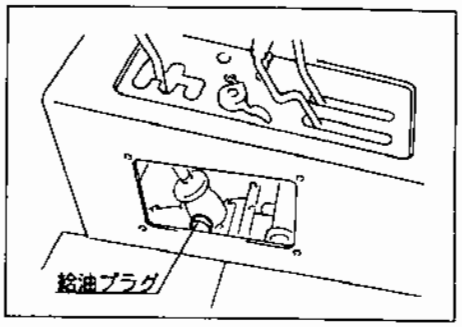
4. 給油プラグを取外し、指定のオイルを注入します。




### 7.4.2 トランスミッションオイル

**点検／補給**

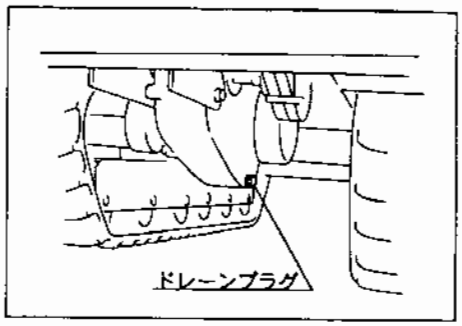
1. 安全カバーを取外します。




2. 給油プラグを取外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   **使用オイル**：☞26ページ
   **オイル量**：2.0ℓ

4. 給油プラグを取付けます。




**交換**

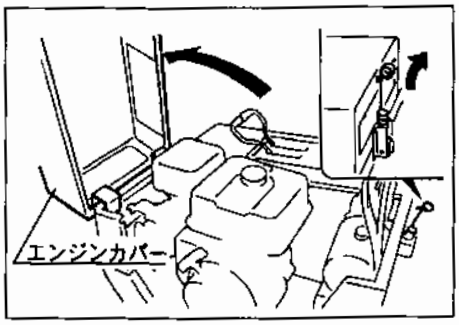
1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

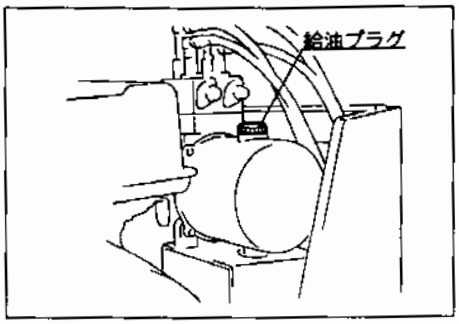
> **⚠注　意**
>
> **オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

**注　記**

**廃油については適切な処理をしてください。**

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを取外し、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）




### 7.4.3 パワーパッケージオイル（平ボディ仕様を除く）

**点検/補給**

注　記

**オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンプの上昇が悪くなりますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。**

1. エンジンカバーを開けます。
2. 給油プラグを取外し、オイル量を目視点検します。
   オイルが不足している場合はオイルを補給します。

   **使用オイル：**☞26ページ
   **オイル量：リフト仕様　2.0ℓ**

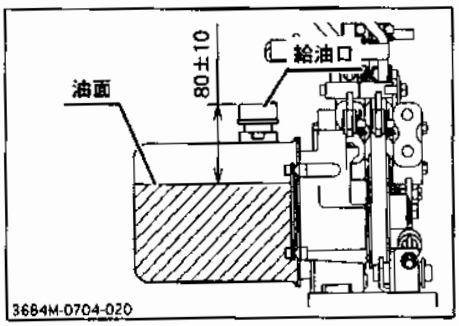
3. 給油プラグを取付けます。
4. エンジンを始動し、ダンプおよびリフト昇降を行い、オイルを循環させます。

注　記

**エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2～3回繰り返すと、正常な状態になります。**

5. ダンプ・リフト下降状態にて油面が規定の位置にあることを確認します。
   不足している場合はオイルを補給します。

   **油面位置：リフト仕様　給油口より80±10mm**



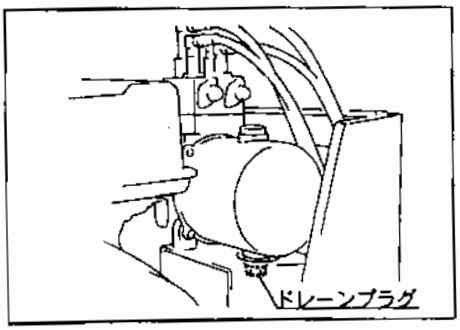

**交換**

1. オイルを抜取るための適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜き取ります。

注　記

**廃油は適切な処理をしてください。**

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. オイルを補給します。



## 7.5 給脂・注油

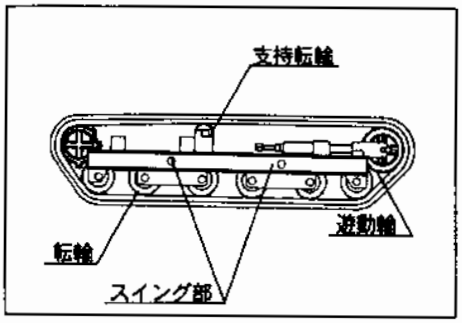
**注　記**

**給脂および注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行われないおそれがありますので、定期的に給脂および注油を行ってください。**

### 7.5.1 給脂

**参考：**

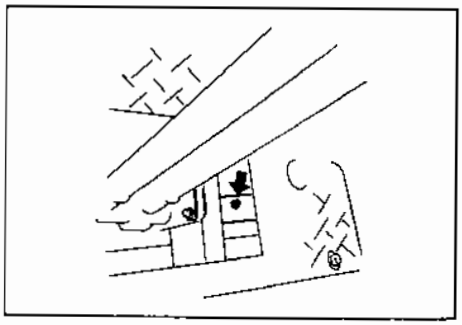
- 手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。



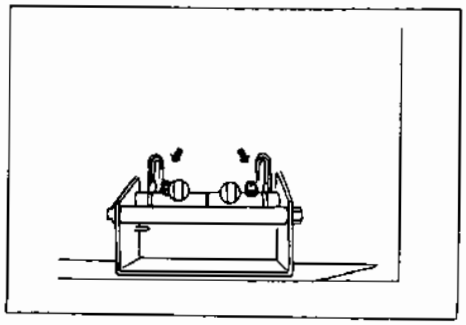

1. 市販の手動式グリースポンプまたはエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。

   **使用グリース：☞26ページ**

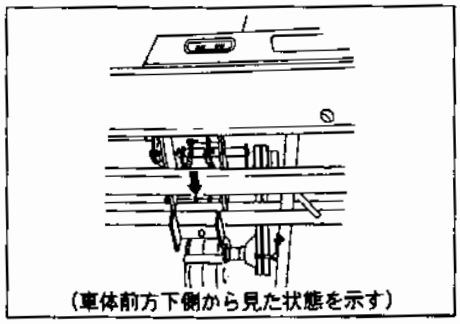
① 転輪、支持転輪、遊動輪、スイング支点



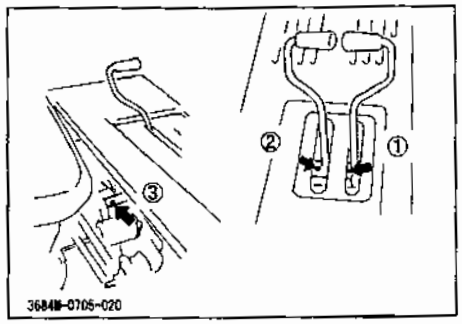
② サイドクラッチレバー支点（前部）



③ サイドクラッチレバー支点（後部）


（車体前方下側から見た状態を示す）

④ 中間サイドクラッチレバー支点

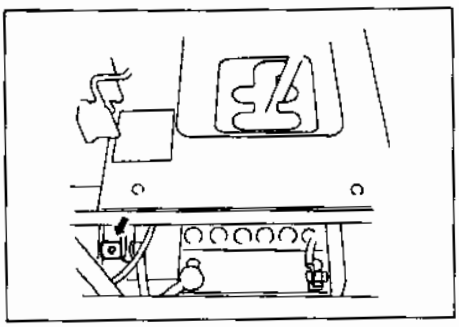



### 7.5.2 注油

下記箇所に注油します。

**使用オイル：**☞26ページ

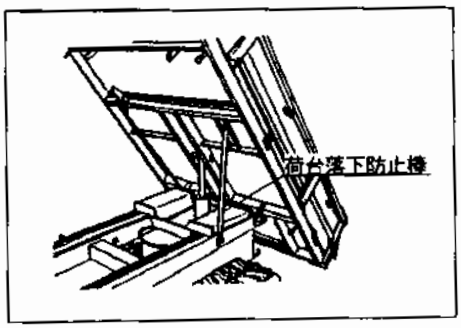
① 走行クラッチレバー支点
② 駐車ブレーキレバー支点
③ 走行クラッチテンションアーム支点



④ 油圧テンションアーム支点（平ボディ仕様を除く）

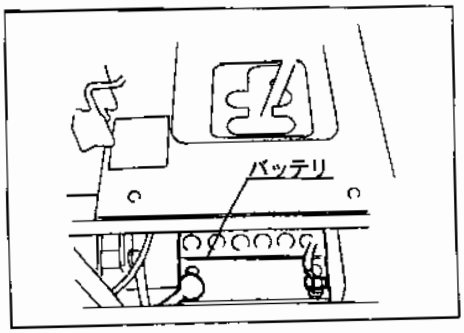
## 7.6 給水

### 7.6.1 バッテリ液




**点検／補給**

1. 車体を水平な場所に駐車します。
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で確実に固定します。(☞19ページ)




3. バッテリ液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

   **バッテリ液量：基準線（上および下）の間**
   **バッテリ液：蒸留水**

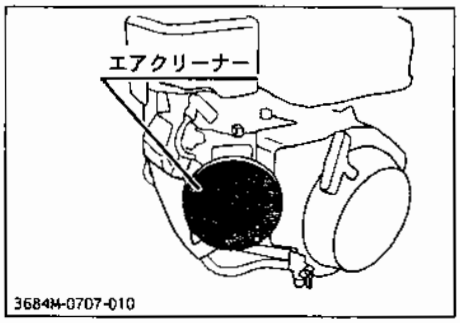
4. 荷台を下降させます。

## 7.7 清掃

### 7.7.1 エアクリーナエレメント

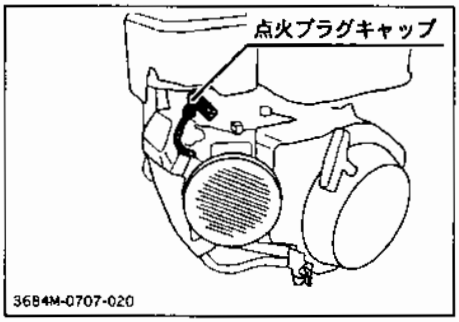
**注　記**

- **エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。**
- **エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。**




**清掃／交換**

1. エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナエレメントを取外します。
3. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。




### 7.7.2 点火プラグ

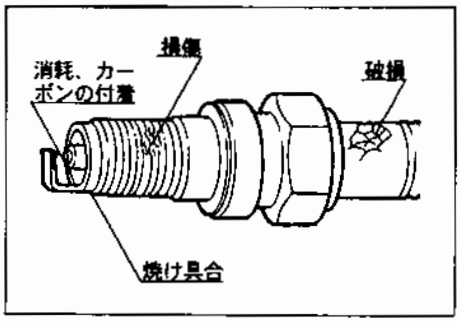
**点検**

1. 点火プラグキャップを取外します。

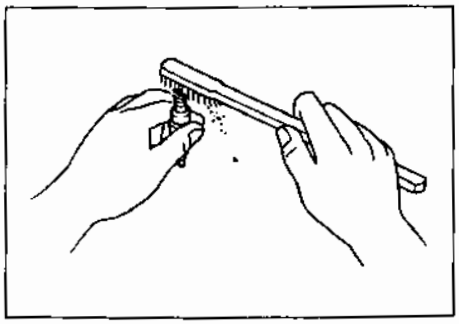
**注　記**

**点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。**

2. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。

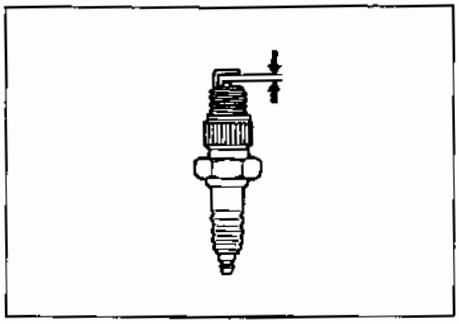



3. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。（点火プラグの仕様：☞10ページ）
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの堆積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合



**清掃**

1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。



2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。

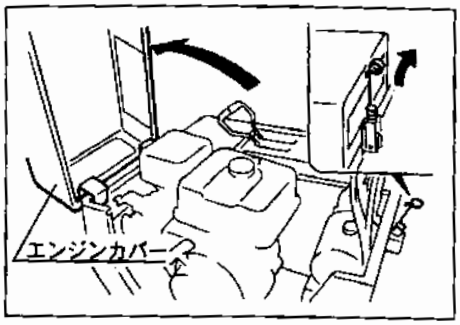
   **標準値：** 0.7 mm

3. 点火プラグを取付けます。

### 7.7.3 フューエルコック（フューエルフィルタ）

**清掃**

1. フューエルコックの清掃については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

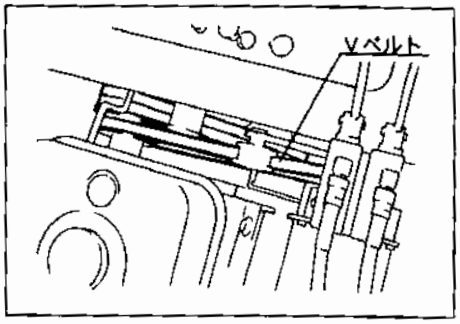



## 7.8 調整

### 7.8.1 Vベルト

**点検**

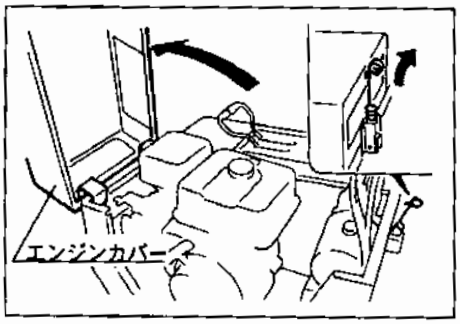
1. エンジンカバーを開けます。




2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

**調整／交換**

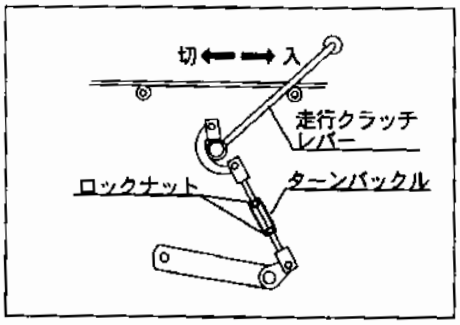
販売店へ依頼してください。




### 7.8.2 走行クラッチ

1. エンジンカバーを開けます。

2. 走行クラッチレバーを「切」の位置にします。




3. クラッチロッドのターンバックルのロックナットを緩めます。

4. ターンバックルを回して調整します。

   - 走行クラッチの切れが悪い場合
     ターンバックルをロッドが伸びる方向に回す。

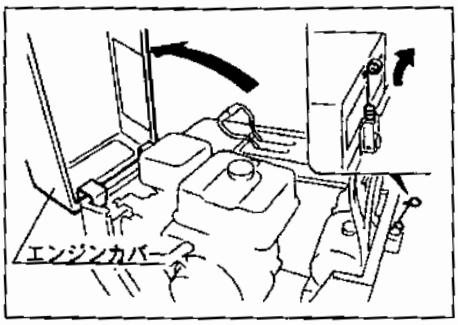
   - Vベルトがすべる場合
     ターンバックルをロッドが縮む方向に回す。

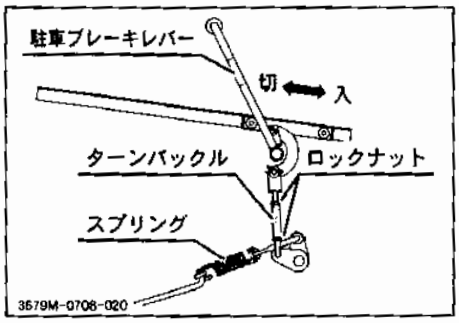
5. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

### 7.8.3 ブレーキ

注　記

**少しでも甘くなったりした場合は即座に下記の調整を行ない、常に安全を心掛けるようにしてください。**



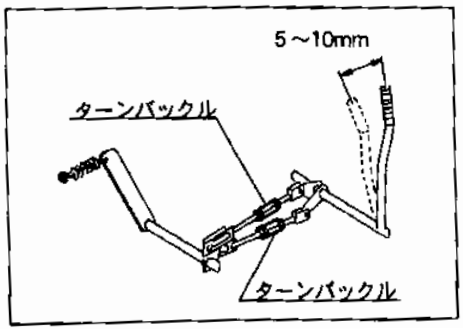




1. エンジンカバーを開けます。
2. 駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。
3. 駐車ブレーキロッドのターンバックルのロックナットを緩めます。
4. ターンバックルを回して調整します。
   - ブレーキの効きが悪い場合
     ターンバックルをロッドが縮む方向に回す。
     スプリングの伸び：4～5mm
5. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

### 7.8.4 サイドクラッチ

注　記

**サイドクラッチレバーに遊びが大きくなった場合は、サイドクラッチロッドのターンバックルで調整してください。旋回が円滑にできない場合は、ブレーキアジャストボルトで調整してください。**

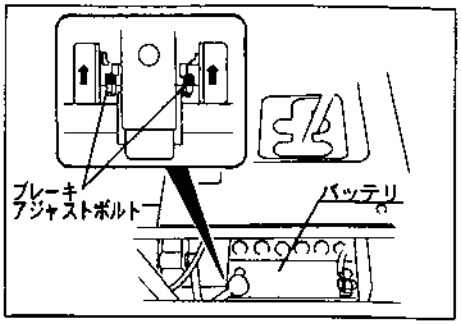



**（サイドクラッチレバーの遊びが大きい場合）**

1. サイドクラッチロッドのロックナットを緩めます。
2. ターンバックルを回し、サイドクラッチレバーの遊びが下記の値になるように調整します。

   **サイドクラッチレバーの遊び：**
   **5～10 mm（レバー握り部で）**

3. 調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。




**（旋回不良の場合）**

1. 荷台を上昇させます。（☞19ページ）
2. ブレーキアジャストボルトのロックナットを緩めます。
3. ブレーキアジャストボルトを矢印の方向（ボルトが伸びる方向）に回して調整します。
4. 調整後、ロックナットを確実に締付けます。

### 7.8.5 クローラの張り

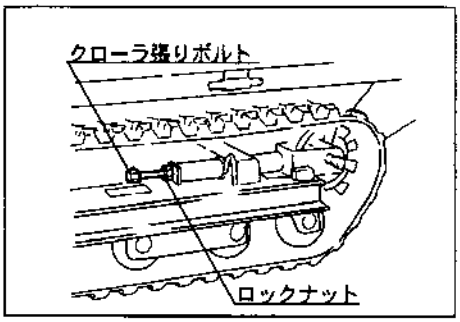
注　記

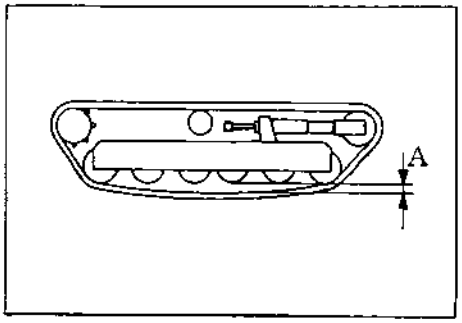
**クローラは新品時には初期伸びが、走行距離が多くなるとスプロケットとのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。**

1. 車体を水平な場所に置きます。
2. ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

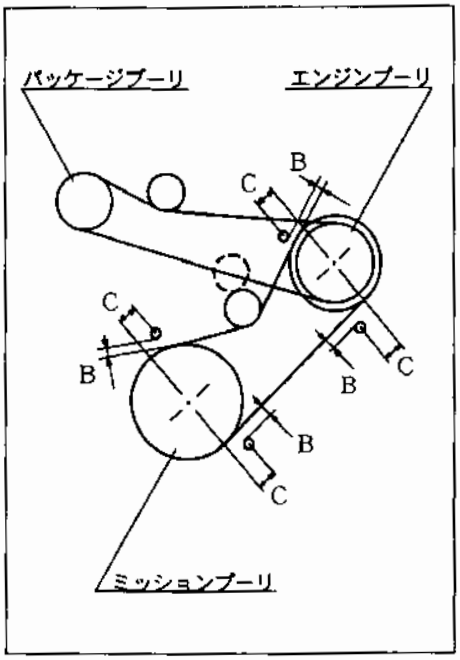
> **⚠注　意**
>
> **ジャッキ等が外れないように十分注意してください。**

3. クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。




4. クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図示A）が10～15mm程度（転輪が水平な状態で）になるよう調整します。
5. 調整後、ロックナットを締付けます。




### 7.8.6 ベルトストッパ

注　記

- **クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパをはずした場合、以下のように調整してください。**
- **調整はエンジン停止の状態で行ってください。**

1. エンジンカバーを開けます。
2. **走行クラッチレバーが「入」の状態で**、Vベルトとベルトストッパの間隔Bを５mm程度に、Cの間隔を10～20mm程度にし、他との接触がないようにセットします。

## 7.9 使用後のお手入れ

**（通常時の使用後のお手入れ）**

- 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンやトランスミッションの給油プラグ付近の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。
- 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておいてください。

**（寒冷期の使用後のお手入れ）**

- 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくと効果的です。）
- 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておいてください。

注　記

**凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。**

# 8. 格納（長期保管）

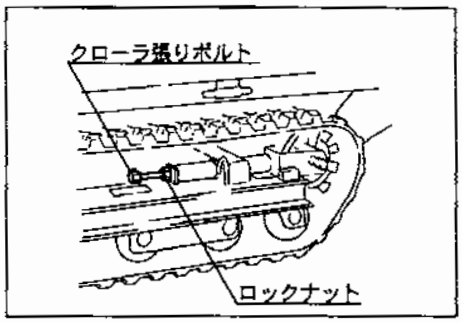
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞37ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

**⚠危　険**

**火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。**

注　記

**屋外および湿気やほこりの多い屋内での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シート等を本機にかけてください。**



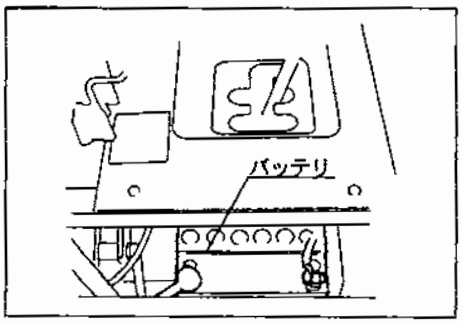

## 8.1　本機（車両）

1. クローラの張りボルトを緩めます。(☞36ページ)
2. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は給油します。
3. クローラの下に板等を敷きます。
4. 走行クラッチレバーを「切」、駐車ブレーキレバーを「切」の位置にします。
5. エンジンキーを抜きます。

## 8.2　バッテリ

**⚠注　意**

**バッテリ線を外す場合は、マイナス（−）を先にプラス（+）を後で外し、接続する場合は、プラス（+）を先にマイナス（−）を後で接続します。**



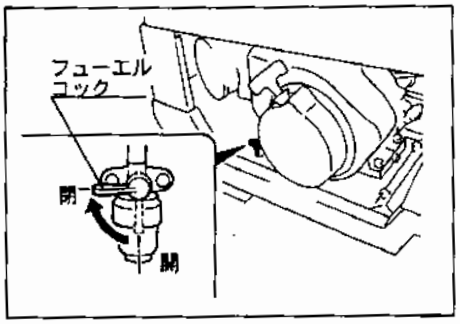

1. 荷台を上昇させます。(☞19ページ)
2. 本体（車両）からバッテリを取外します。
3. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。
4. 低温で乾燥した場所に保管します。

**参考：**
バッテリは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

## 8.3 エンジン

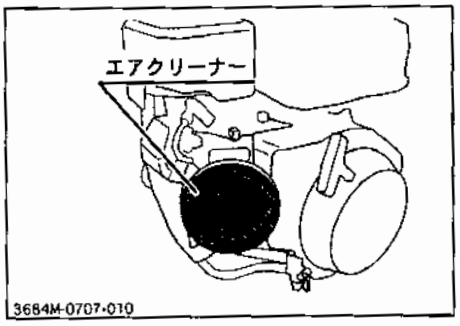
注　記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は、気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



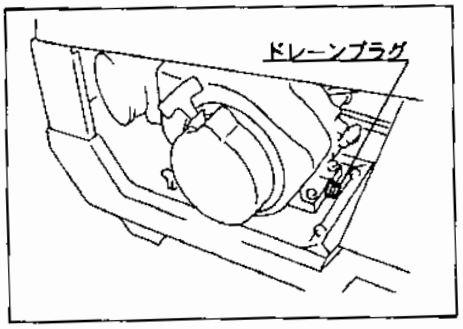

### 8.3.1　フューエルコック

1. フューエルコックを「OFF」の位置にして燃料の供給を停止します。




### 8.3.2　エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞32ページ)




### 8.3.3　エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞27ページ)

# 9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

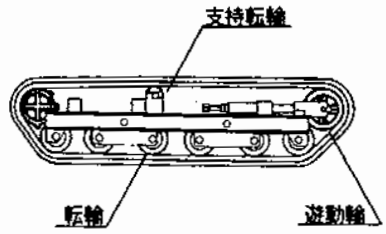
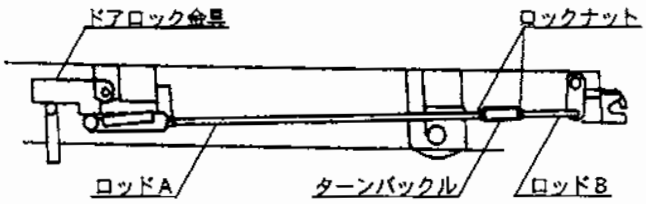
- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

## 9.1 不具合診断表

| 発生箇所 | 不具合現象 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| エンジン関連 | エンジンがかからないまたはかかりにくい | • 燃料不足 | →補給する（☞12ページ） |
| | | • 燃料の吸い込みすぎ | →時間をおいて始動する |
| | | • バッテリの容量不足―セルモータの起動不良 | →バッテリ液を補給する（☞31ページ）<br>→バッテリを充電する（販売店へ依頼してください）<br>→バッテリを交換する<br>→スタータノブを使って始動する |
| | | • バッテリ端子の外れまたは断線 | →接続または修理する（販売店へ依頼してください） |
| | | • エンジンオイルの不足または品質不良 | →補給または交換する（☞27ページ） |
| | | • 点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良 | →清掃または交換する（☞32ページ） |
| | | • その他（上記以外） | →本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。 |
| | すぐにエンストする | • フューエルコックが開いていない | →フューエルコックを開く（☞14ページ） |
| | | • 燃料不足 | →補給する（☞12ページ） |
| | | • チョークの戻し忘れ | →チョークを戻す（☞15ページ） |
| | エンジンが突然停止した | • 燃料切れ | →補給する（☞12ページ） |
| | | • エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き | →点検および補給する（☞27ページ） |
| | アイドリング不良（エンジン回転にムラがある） | ―― | →販売店へお問い合わせください |

| 発生箇所 | 不具合現象 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| エンジン関連 | 出力または加速不足 | • Vベルトの緩み | →調整する |
| | | • スロットルの調整不良 | →販売店へお問い合わせください |
| | | • 過積載 | →積み荷をへらす |
| | エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする | • エンジンマウントの劣化 | →交換する（販売店へ依頼してください） |
| | | • その他 | →販売店へお問い合わせください |
| | エンジンオイルの消費が早い | • エンジンオイルの漏れ | →点検および修理する |
| | エンジンのオーバヒート | • エンジンオイルの不足 | →補給する（☞27ページ） |
| | 燃料の消費が早い | • 燃料系統からの燃料漏れ | →点検および修理する（販売店へ依頼してください） |
| | | • エアクリーナの目詰まり | →清掃または交換する（☞32ページ） |
| | 黒煙が多量に出る（排気状態の不良） | • 圧縮不良 | →点検および修理する（販売店へ依頼してください） |
| | | • エアクリーナの目詰り | →清掃または交換する（☞32ページ） |
| | | • チョークの戻し忘れ | →チョークを戻す（☞15ページ） |
| | 白煙または青煙が出る（排気状態の不良） | • エンジンオイルが入り過ぎている | →点検後、オイル量を調整する（☞27ページ） |
| | | • 燃料不良 | →燃料を交換する |
| | | • シリンダ、ピストンリングの摩耗 | →点検および修理する（販売店へ依頼してください） |
| | スロットルレバーが引っ掛かる | • スロットルワイヤの折れ、錆付き | →交換する（販売店へ依頼してください） |
| | | • スロットルレバーの変形、作動不良 | →交換する（販売店へ依頼してください） |
| 動力伝達装置関連 | クラッチをつないでも車が動かない | • ギヤが完全に入っていない | →ギヤを入れる |
| | | • ブレーキが効いている | →ブレーキの解除 |
| | | • Vベルトが外れている、緩みすぎている | →Vベルトをかける、または調整する（販売店へ依頼してください） |
| | | • トランスミッションの故障 | →販売店へお問い合わせください |

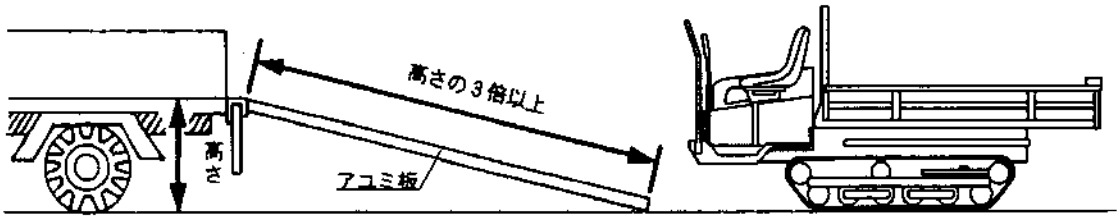
| 発生箇所 | 不具合現象 | 考えられる原因 | 処置 |
|---|---|---|---|
| 動力伝達装置関連 | クラッチの切れが悪い | • 調整不良 | →調整する（☞34ページ） |
| | クラッチをつなぐとVベルトが滑る | • 調整不良 | →調整する（☞34ページ） |
| | トランスミッション付近から異音がする | • ギヤの損傷、ベアリングの摩耗 | →販売店へお問い合わせください |
| | 変速できない | • クラッチの調整不良<br>• ギヤの損傷、ベアリングの摩耗 | →調整する（☞34ページ）<br>→販売店へお問い合わせください |
| | ギヤ抜けする | • 確実に変速（シフト）していない<br>• ギヤの摩耗<br>• 過積載 | →確実に変速（シフト）する<br>→販売店へお問い合わせください<br>→積み荷を減らす |
| | サイドクラッチで遊びが発生する | • 調整不良 | →調整する（☞35ページ） |
| | 旋回が円滑に行えない | • 調整不良 | →調整する（☞35ページ） |
| ブレーキ | 効きが悪い | • 調整ナットの緩み<br>• ブレーキライニングの摩耗<br>• ブレーキドラム内にオイルが浸入<br>• ブレーキドラム内に水が浸入<br>• 過積載 | →調整する（☞35ページ）<br>→ライニングを交換する（販売店へ依頼してください）<br>→オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください）<br>→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす<br>→積み荷を減らす |
| クローラ | クローラが円滑に回転しない | • 調整不良 | →調整する（☞36ページ） |

<table>
<tr><th>発生箇所</th><th>不具合現象</th><th>考えられる原因</th><th>処　　置</th></tr>
<tr><td rowspan="3">転　輪、<br>支持転輪、<br>遊動輪</td><td>不連続音がある</td><td>――――</td><td>→不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）</td></tr>
<tr><td>異常発熱がある</td><td>――――</td><td>→不良部品を交換する（販売店へ依頼してください）</td></tr>
<tr><td colspan="3"> 
</td></tr>
<tr><td>ダンプおよびリフト装置</td><td>ダンプまたはリフト装置が作動しない</td><td>• パワーパッケージのオイル不良<br>• 油圧系統からのオイル漏れ</td><td>→給油する（☞29ページ）<br>→点検および修理</td></tr>
<tr><td>安全装置</td><td>前照灯が作動しない</td><td>• 配線の端子の外れまたは断線<br>• バルブ切れ</td><td>→接続または修理する<br>→交換する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">荷　台</td><td>後ドアの開閉不良</td><td>• ドアロックの調整不良</td><td>→ターンバックルを調整する（下記参照）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ダンプおよびリフト＆ダンプ仕様<br> 
</td></tr>
</table>

# 10. 本機の移送

本製品の移送のために、自動車（トラック）へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの1.2倍以上）、長さ（高さの３倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。




2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

3. 積降ろしのとき、運転者は本機から降りて操作してください。

**⚠危　険**

- **作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。**
- **アユミ板上での方向変換は行わないでください。転落の危険があります。**
- **アユミ板を上がるときは前進１速、アユミ板を下るときは後進１速にてゆっくりと走行してください。**

**⚠注　意**

**アユミ板と自動車（トラック）の荷台の境目で機械の重心が急に移動することがあるので注意してください。**